

[004] 生活体験学習研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/8993>

出版情報：生活体験学習研究. 4, 2004-01-30. 日本生活体験学習学会
バージョン：
権利関係：

科研費研究報告

「子どもの心と体の主体的発達を促進する生活体験学習プログラム開発に関する研究」

◆全体的な研究の進捗状況

I 会議日程

- 第1回 2003年6月15日 九州大学
第2回 11月9日 九州大学
第3回 2004年1月5、6日
(原鶴グランドスカイホテル)

II 研究進捗状況

2003年3月に中間報告書をまとめ、発刊しました。

また、2003年3月1日福岡県立社会教育総合センターにて開催された日本生活体験学習学会第4回研究大会にて、本科研費に関する自由研究発表を、研究分担者が中心として、以下の4本行いました。

- ① 南里悦史「子どもの生活体験と日常生活に関する三地区調査—科研費研究結果をもとに—」
- ② 山崎清男・山城千秋「地域文化と生活体験—子どもエイサーと神楽を中心に—」
- ③ 小原達郎・塩谷麻沙子「子どもの生活体験と生活技能」
- ④ 井上豊久「ドイツにおける生活体験学習に関する研究」

本年度も、昨年度に引き続き、各部会に分かれ、それぞれの部会にて議論を深め、調査・研究を実施しました。

なお、本年度末には、これまで3年間の研究成果をまとめた最終報告書を発刊する予定にしています。

◆幼年期部会研究進捗状況

I 会議日程

- 第1回 2003年3月1日 福岡県立社会教育総合センター
第2回 4月9日 礎精神医学研究所
第3回 6月15日 九州大学
第4回 10月13日 礎精神医学研究所

- 第5回 11月9日 九州大学
第6回 11月13日 礎精神医学研究所

II 研究進捗状況

本年度の幼年期部会における研究活動は、以下の通りです。

1. 保育プログラムと低体温児の相関調査

活動的な園4園と活動的でない園(比較群)3園を設定し、年長5才児を対象とし、低体温と保育プログラムに相関があるかどうかについて、以下の5点から調査をおこないました。(調査方法、仮説についての詳細は、日本生活体験学習学会誌第3号131-133頁参照)

- ① 保育士による登園児の子どもの「表情」や、登園1時間以内の「活動状態」についての観察(観察カード記入)
- ② 登園時の体温の測定
- ③ 家庭での生活についてのアンケート調査
- ④ 年間指導計画、月案、日案の収集と内容を検討
- ⑤ 実践・指導の具体的な方法についての観察と聞き取り調査

調査園は、熊本市ひまわり保育園、熊本市やまなみ保育園、中津市如水保育園、福岡市中央保育園、福岡市たかとり保育園、春日市あいあい保育園、宗像市赤間保育園の7園にご協力いただきました。

調査結果は、全体として保育プログラムに関わらず36度前半の幼児が多く、全体として低いことが明らかとなりました。しかし35度台の低体温児の割合は、本研究の仮説ほど多くないことがわかりました。また家庭生活の様子についてのアンケートでは、幼児のほとんどが朝、排便をすましていないことが明らかになりました。また多くが朝食を抜いて、あるいはスナック菓子で朝食を済まして登園する幼児が多くいました。また睡眠時間についても、23:00以降に就寝する幼児が多いことが明らかになりました。全体として、生活リズムを整っていない幼児の生活実態と低体温の関係があるのではないかという仮説を立てることができました。

2. 生活リズムを整える保育プログラム開発

幼児の生活リズムと低体温の相関を仮設とし、福岡市・中央保育園の全面的協力を得て、11月17日(月)～11月29日(土)の2週間にわたり、生活リズムを整える保育プログラム開発についての調査を行いました。保育プログラムは、年長児30名を対象とし、登園時に朝食としてみそ汁を食べさせ、幼児それぞれにゆったりとした時間を過ごさせ、保育士が、幼児の身体が温まるようマッサージをし、また排便をうながしました。その上で、調査開始時と、中日、最終日の昼食前・降園時の3回体温を測定し、その変化を調べました。

この調査成果については、2004年1月の日本生活体験学習学会第5回研究大会自由研究発表にて報告する予定となっています。

◆少年期部会研究進捗状況

I 会議日程

第1回	2003年6月15日	九州大学
第2回	7月25日	九州大学
第3回	8月31日	庄内町生活体験学校
第4回	9月16日	長崎大学
第5回	10月5日	九州大学
第6回	11月9日	九州大学

II 研究進捗状況

本年度の少年期部会における研究活動は、以下の通りです。

1. 子どもの生活体験と生活技能調査

昨年度、実施した調査結果について引き続き分析、検討するとともに、調査対象である埼玉県鶴ヶ島市(10月)、福岡県糸島郡志摩町(3月)、沖縄県浦添市内間(10月)の3地域には、地域の公民館や教育施設において、父母や教師、地域住民の方々に集まってもらい、研究成果の報告を行いました。

2. 祭り調査

祭り調査も、昨年度の研究を継続し、実施しました。

また、昨年度、日程の都合上、実施できなかった

長崎くんちの練習風景の観察を、9月15日に実施しました。

3. 庄内町生活体験学校における通学合宿生活体験学習プログラムの観察調査

庄内町生活体験学校における観察調査は、本科学研究の主題でもあるプログラム開発にかかわる調査として、9月21日～27日の期間で実施しました。

調査は、庄内町生活体験学校での通学合宿事業の参加者11名のうち、主に小学校4年生以上の6名を中心に観察調査を実施しました。調査方法としては、大学院生2名が事業期間中、参加した子どもとともに生活体験学校に滞在し、起床から就寝まで(通学時は除く)の子どもの様子について、詳細に記録を行いました。また、併せて、①子どもの事業参加以前の生活体験の状況や子どもの事業中の変容を見るための質問紙調査(事業前・後で実施)、②生活技能に関する動作観察調査、③参加した子どもの保護者に対する子育てに関する質問紙調査の3つを実施しました。

なお、本調査の調査結果を部会全体として共有するために、9月26、27日の両日において、活動風景の観察、記録者からのそれまで観察での特徴点の報告、分析の視点の検討等が行われました。

この研究成果については、2004年1月の日本生活体験学習学会第5回研究大会自由研究発表にて報告する予定となっています。

◆外国部会研究進捗状況

I 会議日程

第1回	2003年6月15日	九州大学
第2回	7月30日	福岡市ナビリオ
第3回	9月3日	熊本大学
第4回	9月16日	熊本大学

II 調査目的

本調査は、イタリアにおける幼児教育実態と生活体験活動に関する研究として、モンテッソーリ保育園における主体的な幼児の活動を支援する保育内容について視察を行いました。視察調査の目的は、近年、注目を集めているレッジョエミリア市の保育計画や、これ

まで明らかにされてこなかったボローニャ市の取り組みを視察し、生活体験学習プログラム開発に資する基礎的な資料を収集することにあります。

II 外国調査日程

9 / 29(月)

福岡空港 (08:20) ⇒ 関西 (11:30) ⇒ アトム共同保育所 (13:30) ⇒ 貝塚子育てネットワーク ⇒ 関西発 (23:40) ⇒ 国際線でローマへ

<機内泊>

9 / 30(火)

ローマ市着 (06:30) ⇒ モンテッソーリ協会 (10:00) ⇒ (13:30) モンテッソーリ「子どもの家」幼児教育実態視察 (17:00) ⇒ ホテル

<ローマ泊>

10 / 1(水)

ホテル ⇒ (10:30) モンテッソーリ「子どもの家」昼食の給仕視察 (13:00) ⇒ ローマ市内視察 ⇒ ホテル

<ローマ泊>

10 / 2(木)

ローマ発 (08:30) ⇒ レッジョエミリア着 (12:30) ⇒ レッジョエミリア市役所・図書館視察 (14:30) ⇒ レッジョ・チルドレン視察 (17:00) ⇒ ホテル

<レッジョエミリア泊>

10 / 3(金)

レッジョエミリア発 (08:30) ⇒ ボローニャ着 (10:00) ⇒ ボローニャ市公立保育所2園視察 (12:00) ⇒ (13:00) ボローニャ市幼児教育行政視察 (14:30) ⇒ ボローニャ市「人民の家」視察 (17:00) ⇒ ボローニャ発 (8:30) ⇒ レッジョエミリア着 ⇒ ホテル

<レッジョエミリア泊>

10 / 4(土)

レッジョエミリア発 (10:43) ⇒ 列車にてミラノへ移動 ⇒ ミラノ着 (12:05) ⇒ ミラノ市内視察 ⇒ ホテル (17:30)

<ミラノ泊>

10 / 5(日)

ミラノ発 (10:00) ⇒ (14:35) ミラノ空港発 <機内泊>

10 / 6(月)

⇒ 成田空港着 (09:25) ⇒ 羽田空港へ移動 ⇒ 羽田空港発 (13:30) ⇒ (15:10) 福岡空港到着

なお、本調査の結果は、2004年1月31日の日本生活体験学習学会第5回研究大会自由研究発表において報告を行う予定です。

(文責：東内瑠里子・永田誠)